

1年 星の花が降るころに

組 番 名前

Step 1

夏実と戸部君に対する「私」の行動や様子とそのときの心情を、空欄をうめてまとめよう。また、場面ごとの「私」の心情の変化を線で書き表してみよう。

回想	廊下で	教室の中で	昼休み	放課後 校庭で	公園で
＋ 私」の心情の変化	－ 私」の行動や様子	私」の心情			
・ 夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。	・ 戸部君をにらんだ。 ・ 戸部君を押しつけるようにして廊下に向かった。	※夏実の姿が目に入った。 ・ (ぎこちなく) 足をふみ出した。	※夏実は顔を背け、目の前を通り過ぎて行った。 ・ 戸部君がこちらを見ていることに気づいた。 ・ 唇がふるえ、目のふちが熱くなった。	・ 戸部君を探した。 ※黙々とボール磨きをしている戸部君を見る。 ※「あたかもしれない」二人で顔を合わせてふき出した。	※銀木犀のある公園に立ち寄る。 ※夏実との思い出が詰まった袋の中の (星形の花) を土の上にはらはらと落とした。
※ぼんやり思い出していた	▼ (わけがわからない) ▼ 今日こそは (仲直りをする) と決めてきた	▼ 自分の (心臓) がどこにあるのかはつきりわかった ▼ 音のない (コマ送りの映像) を見ているよう ▼ きまりが悪くてその場を離れる	▼ (繊細さのかけら) もない戸部君のことが気がかりだった ▼ 憎らしくてしかたがなかった ▼ 自分の考えていたことがひどく (小 さく、くだらない) ことに思えてきた ▼ やっぱり戸部君って、 (わけがわからない)	▼ (大丈夫) 、きっとなんとかやっつけていける	

Step 2

戸部君との関わりによって、「私」の心情はどのように変化したのか、印象的な場面をあげてまとめよう。

「私」は戸部君を繊細さのかけらもなく子供っぽいと思っていた。しかし、黙々とボールを磨く姿や落ち込んでいる「私」を冗談で元気づけてくれたことから戸部君に対する見方が変わり、私自身も前向きな気持ちになっている。